

情報公開用文書（茅ヶ崎市立病院で実施する医学系研究）

西暦 2020年3月13日作成

■研究課題名	2015年出生児を対象としたハイリスク新生児医療全国調査
■研究の対象	2015年1月1日から2015年12月31日に出生体重1,000g未満で出生した新生児(超低出生体重児)
■研究目的・方法	日本小児科学会新生児委員会では、1990年から5年ごとに超低出生体重児(出生体重1,000g未満)の死亡率の調査を実施してきました。これまでの調査では、いずれも日本で出生した超低出生体重児の90%以上をカバーしており、本調査の結果は日本の周産期医療の水準を示す重要な指標として利用されています。また、超低出生体重児の分娩が予想される際に、ご家族に与えられる情報でもあります。これまでの調査の結果をみると、わが国の超低出生体重児の死亡率は調査のたびに改善しており、国際的にみても極めて治療成績が良いことが分かっています。 本調査の目的は、2015年に出生した超低出生体重児の死亡率を明らかにするとともに、過去の調査と比較してどのように変化しているのかを明らかにすること、さらには死亡率に影響を及ぼす要因を検討することです。またわが国の周産期医療の特徴として、超低出生体重児の死亡率は諸外国と比べて著しく低い一方、未熟児網膜症や慢性肺疾患といった、早産児特有の合併症の頻度が高いことが分かっています。本調査では死亡率とともに、これらの合併症の発生頻度についても調査を行い、わが国における現状を把握、諸外国との国際比較を行う際のデータとして使用するとともに、今後のわが国の周産期医療の更なる発展につなげることを目的としています。
■研究期間	2021年9月末日まで
■研究に用いる試料・情報の種類	対象の患者様の診療録情報すなわち、出生体重、在胎期間、性別、新生児搬送・母体搬送の有無、分娩形式、母体へのステロイド投与の有無、臨床的絨毛膜羊膜炎の有無、妊娠高血圧症候群の有無、児が入院した日数、児の合併症(壊死性腸炎、新生児限局性消化管穿孔、慢性肺疾患、未熟児網膜症、嚢胞性脳室周囲白質軟化症、脳室内出血)、児の転帰(自宅退院、転院、死亡)、主たる死亡原因、退院時の体格、在宅医療の有無(氏名、生年月日、住所、電話番号など個人を特定可能な情報は含まれません。)
■試料・情報の取得と保管方法	対象の患者様の診療録よりデータを抽出させていただきます。研究班所定の様式に書き出し電子的に送付いたします。
■外部への試料・情報の提供	日本小児科学会新生児委員会に提出します。
■研究組織	日本小児科学会新生児委員会 委員長 日下 隆(香川大学医学部小児科学講座教授) この研究において開示すべき利益相反はございません。
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで、電話またはFAXにてお申し出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはございません。</p> <p>お問い合わせ先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先:</p> <p>〒253-0042 茅ヶ崎市本村5-15-1 茅ヶ崎市立病院 小児科 (研究責任者) 小田洋一郎 電話番号:0467-52-1111(代表) FAX:0467-54-0770</p>	